

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 高校生としてふさわしい「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。
1. 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現
2. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

2 中期的目標

- 令和３年に80周年を迎えた本校のこれまでの伝統を継承し、府立高校としての発展と、「知・徳・体」のバランスの取れた人格形成に努めながら、より一層の学力向上に取組み、生徒一人ひとりの進路希望の実現につながる教育をめざす。
- 1 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現
- （１）いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。

・いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。特に、SNSによる嫌がらせ行為などに対してしっかりと指導する。

（２）規範意識を高め、基本的生活習慣の定着をはかる。

・安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・自己防衛などの意識向上に取り組む。

・登校時間や学校生活におけるさまざまな活動時間の厳守に取り組む。

・校則の遵守と規範意識の向上に取り組む。

・学校評価アンケートにおいて「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」の肯定的回答をR6には85%以上とする。[R1 83.3%, R2 80.7%, R3 79.6%]

（３）相互尊重の精神のもとに、責任感をもって自律的に行動する生徒を育成する。

・防災・減災教育を推進することで、非常変災の際に自らが取るべき態度と行動を身につける。

（４）互いの人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。

・人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。

（５）生徒会・各種委員会活動をさらに発展させ、学校集団の発展をはかる。

・キャリア教育を推進する。

・生徒会・各種委員会活動の充実をはかる。

・伝統と文化を尊重する態度、創造性を涵養する。

・学校評価アンケートにおいて「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」の肯定的回答をR6には85%以上とする。[R1 71.7%, R2 73.9%, R3 71.0%]
- 2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上
- （１）組織的な校務運営を行いながら、指導内容や方法を工夫改善し、生徒の基礎学力の定着と応用力・実践力の充実・向上に取り組む。「わかる授業、充実した授業」のために、授業研究や幅広い実践的な研修を実施し、学校全体の教育力向上をめざす。

・教職員一人ひとりが授業実践についての研究・改善を進める。授業公開を行い、その目的達成のきっかけとする。

・主体性を持って学習する習慣を身につけるため土曜・放課後自習室を開催する。

・学習のPDCAサイクルを意識し探究する意欲をもつ主体的な学習者を育てる。

・授業アンケート「先生はよりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている。」の回答をR6には3.6以上とする。[R1①3.50,R2 3.57,R3 3.56]

（２）進路意識の高揚をはかり、それぞれの進路希望の実現をめざす。

・補習授業・個別指導・自習環境の整備など、進路希望実現への支援の充実をはかる。

・生徒が自分にふさわしい進路目標を設定できるよう、様々な援助・支援を行う。

・難関私立大学及び国公立の延べ合格者数をR6年には250人にする。[R1 212人,R2 244人,R3 272人]

（３）国際交流活動を推進する。

・オーストラリアやロシア・サンクトペテルブルクの交流校、姉妹校との国際交流事業のさらなる充実をはかり、国際理解を深めるとともに、英語科の魅力を校外に発信する。

（４）自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につけさせる。

・学校行事・部活動充実のための環境・条件整備を進める。

・自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につける。

・コロナ禍で精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、支援する。

・支援を必要とする生徒の実態を把握し、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。

・学校評価アンケートにおいて「学校の先生は生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の肯定期回答をR6には73%にする。[R1 71.5%, R2 69.5%, R3 69.5%]

（５）生徒の希望する進路の実現

・大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。
- 3 チーム「いちりつ」としての課題解決にあたる教員集団の確立
- （１）学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

・学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立する。

（２）働き方改革としての業務の平準化、効率化

・時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 1 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ・補講・自習室の開設など学習指導に取り組んだ。 ・「1 人 1 台端末を効果的に活用している」の質問に対して「よくあてはまる」、「ややあてはまる」と回答した生徒は合わせて 52%であった。更に活用をしていく必要がある。 【生徒指導等】 ・スマートフォン・SNS に関する講話および人権講話を計画通り実施し、いじめ未然防止の推進につなげることができた。また、あいさつ・服装・頭髮・スマートフォン等の指導により、校則の遵守と規範意識の向上にも取り組んだ。 【生徒会行事・部活動】 ・コロナ禍の中で制約の多い中、感染防止に努めながら予定通り学校行事を実施した。次年度、国及び大阪府においてコロナ対応方針に変更が行われた場合は、校内の対応も見直す必要がある。 ・部活動については、レスリング部、放送部、卓球部、ダンス部が全国大会出場、水泳部が近畿大会出場するなどの実績をあげた。コロナ禍ではあるが生徒は部活動に積極的に参加していた。 【学校運営】 ・本年度もコロナ感染防止に努め、教育活動を推進した。 ・大阪府リーディング GIGA スクール研究校の指定を受け、今後、研究校としての取り組みが期待されている。他の研究とも連携しながら教育活動を推進する必要がある。	第 1 回（7 / 1） ○R4 年度学校経営計画について ・市立高校時の良い取り組みについては継続してほしい。 ・一部の数値目標が低いように思われる。今後は目標値を高く設定することが望まれる。 第 2 回（12/12） ○R4 年度学校経営計画の進捗状況について ・サマーセミナー等特色のある行事が実施できたことは大変良かった。高大連携など今後も継続してもらいたい。 ・府への移管 1 年目で教職員の負担も大きいと思われるが、健康に留意し教育活動を推進してもらいたい。 ・国際交流についても来年度の研修旅行、姉妹校受け入れについて準備を進めてもらいたい。 第 3 回に（2 / 28） ○R4 年度学校経営計画の進捗状況について ・概ね計画通りであった。次年度も教育活動を目標が達成できるように頑張ってもらいたい。 ・コロナウイルスの感染が収まるようであれば、近隣学校園も含め、地域連携を推進してもらいたい。 ・今までの取組みが継続実施できて大変良かった。また、本年度 LETS に参加するなど大阪府立の高校としての取組みを始めたことも評価できる。 ・府への移管 1 年目で教職員の負担も大きい年であったと思われるが、今後も健康に留意し教育活動を推進してもらいたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
1 子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現	（1）いじめを絶対に許さない学校の雰囲気づくりに取り組む。	ア いじめ未然防止の推進のために、各学年に対してスマホ・SNS に関する講話および人権講話を開催する。また、必要に応じて集会などを設ける。また、掲示物で常日頃から注意喚起をおこなう。	ア スマホ・SNS に関する講話および人権講話を開催する。各学年 1 回開催する。 [R3 3 回]	ア 1 学期のうちに、各学年ともスマホ・SNS に関する講話および人権講話を計画通り実施することができた。いじめ未然防止の推進につなげることができた。[R4 3 回]（○）
	（2）規範意識を高め、基本的生活習慣の定着をはかる。	ア 安全教育を推進し、交通マナー・事故防止・歩行者という立場も含めた自己防衛および安全配慮などの意識向上に努める。 ・交通安全講話または自転車通学者向けの講話等を年 3 回実施する。 ・生徒の事故状況についての情報を共有する。 また、安全意識向上のために掲示物を活用し、再発防止に努める。 ・自転車通学者には、自転車保険の加入・雨天時のカッパの着用・交通ルールの遵守を徹底させる。 イ けじめのついた有意義な学校生活を送らせるために、時間を守る意識を高め、登校時間や学校生活におけるさまざまな活動時間の厳守に取り組む。また、担任・学年・健康指導部と連携し、生徒の状況を把握するとともに、それぞれに応じた適切な指導をおこなう。 ・各月ごとの遅刻統計をもとに、遅刻傾向の分析や対策を全職員で共有し、遅刻防止の啓発活動をおこなう。 ・遅刻の多い傾向にある生徒に対して、タイムマネジメントや体調管理についての指導を、担任・学年団・家庭との連携を強化し粘り強くおこなう。	ア 交通安全講話または自転車通学者向けの講話等を年 3 回実施する。 [R3 1 回] イ 遅刻者を 1 日平均 5 人以下とする。 [R3 4.5 人]	ア 4 月に交通安全講話を 10 月に自転車通学者向けの講話を実施した。また、事象が起こるごとに校内に掲示するなど安全意識の向上に努めた。昨年度は交通安全講話を感染防止等のため学年別に実施した。本年度は 1 年生を中心に交通安全講話を企画した。[R4 1 年生全体に対する交通安全講話 1 回、自転車通学者対象交通安全講話 1 回、その他適宜指導を行った]（○） イ 遅刻者を対象として担任及び健康指導部と連携し指導を行っているが、体調不良者や要配慮生徒の増加もあり 1 日平均 5.5 人に至っている。遅刻統計を共有し、遅刻防止週間での指導を計画通り進めた。（○）

府立いちりつ高等学校

		・年3回学期ごとに遅刻防止週間を設定し、指導委員の主体性を生かした遅刻防止の啓発活動を実施する。また、遅刻が少ないクラスに対して表彰等をおこなう。		
		ウ あいさつ・服装・頭髮・スマートフォン等の指導により、校則の遵守と規範意識の向上に取り組む。 ・講話等を通じて、校則や規律を守ることの大切さを理解させる。	ウ 学校評価アンケートにおいて①「本校の学校生活で基本的な生活習慣を身につけられる」（生徒）②「遅刻指導など、基本的な生活習慣が身に付けられるような指導がされている」（保護者）の指数を各学年80%以上とする。 [1年 ① 81.8% ② 91.2%] [2年 ① 74.9% ② 84.3%] [3年 ① 82.2% ② 86.7%]	ウ 粘り強く指導を続け、特別指導はここ数年減少傾向にある。[R4 現時点で1件] (○) 【R4 全学年集計結果①85%（生徒）②95%（保護者）】
	（3）相互尊重の精神のもとに、責任感をもって自律的に行動する生徒を育成する。	ア 避難訓練を実施することで、自らの危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。防災・減災教育を推進することで、非常変災時には自らが支援者として行動し社会に貢献する態度を育成する。	ア 1学期に総合避難訓練を1回実施する。・2学期に大阪880万人訓練に参加し、身を守る初期行動訓練を行う。[R3 2回]	ア 1学期に地震発生時の避難訓練を実施、2学期に火災発生時の避難訓練を実施した。防災・減災教育を推進することで、非常変災時には自らが支援者として行動し社会に貢献する態度の育成につなげることができた。[R4 2回] (○)
	（4）お互いの人権を尊重し、違いを認め合う心を養う。	ア 様々な人権問題について正しい知識を身につけ、各種の行事・LHR等を通じてお互いの人権を尊重し、協力する態度・意識を育てる。生徒・保護者・教職員対象の講演会・研修等各種取組を進める。	ア 生徒・保護者・教職員対象の各種取組を進める。講演会等を年1回以上実施する。[R3 6回]	ア 人権行事として、1学期に演劇鑑賞を行った。3学期には「めぐみ」の視聴、LGBTの講演会及び研修会を実施した。人権を尊重し、違いを認め合う心を養う教育を推進した。本年度は全校集会やGIGAスクールプロジェクターを用いて一斉に実施した。[R4 2回] (○)
	（5）生徒会・各種委員会活動をさらに発展させ、学校集団の発展をはかる。	ア シェアド・リーダーシップの姿勢で協働できるいちりつ生の育成を支援する。状況が許せば近隣の保育園・幼稚園・小学校で2年生を対象としたインターンシップを実施する。キャリア教育（生徒のロールモデル）、高大連携の一環として関西大学生のスクールインターンシップを受け入れる。 イ 学校行事や各種委員会活動を通じて、自分で考え行動を起こすことができる生徒集団を育成する。部活動等の集団活動を通じて、規範意識や他者と協力することの大切さを理解させるとともに、他者との違いを理解・尊重できる生徒を育てる。 ウ 「文楽鑑賞教室」、「歌舞伎鑑賞授業」、「高校生のための大塚国際美術館鑑賞ツアー」等大阪市・大阪府の行事を活用し、生徒を優れた芸術鑑賞に導くことで、伝統と文化を尊重する心豊かな創造者となるよう涵養する。	ア 生徒の変容をアンケートや聞き取り調査により確認する。内容理解度を70%以上とする。[R3 55.2%] イ 学校評価アンケートにおいて「学校は生徒会を中心に、部活動や学校行事を活性化するように工夫している」の指数を70%以上とする。[R3 71.0%] ウ 芸術鑑賞会を年1回以上実施する。[R3 3回]	ア 保育園・幼稚園・小学校でのインターンシップは新型コロナウイルス感染症の状況により、中止となった。そのためアンケートも実施できなかった。その一方、高大連携の一環として関西大学のスクールインターンシップを受け入れた。ソフトテニス部・吹奏楽部でのクラブ指導や1年生を中心に授業やHR、行事指導においてよきロールモデルとしての講話の機会を設けた。全数の聞き取りは実施できていないものの、9割方の生徒が講話に集中していた。(○) イ 10月までに学校行事（体育祭や文化祭、球技大会）を実施した。その中でクラス等の集団内で目標に向かって取り組むため協力・練習することや、事前に伝えているルールの範囲内でいかに楽しい作品を作るか生徒主体で話し合うなどの姿を確認できた。意見の衝突等の困難がありつつも、話し合いで解決するなど他者との違いを理解・尊重する姿も見られた。(○) 【R4 72.7%】 ウ 「文楽鑑賞教室」、「歌舞伎鑑賞授業」については事業が実施されないか府立高校が対象外であった。「高校生のための大塚国際美術館鑑賞ツアー」には2名の生徒が、また「高校生のための劇団四季鑑賞会」には4名の生徒が参加予定で、伝統と文化を尊重する心豊かな創造者となるよう優れた芸術鑑賞に生徒を導くことができた。[R4 3回] (○)
2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上	（1）組織的な校務運営を行いながら、指導内容や方法を工夫改善し、生徒の基礎学力の定着と応用力・実践力の充実・向上に取り組む。「わか	ア 個々の生徒の進路希望実現のために必要な教育課程の編成、改善に努める。生徒が選択科目を適切に選択できるよう支援するとともに、個々の学習発達段階に応じた授業・補習の実施をはかる。 ・各科目の教科内容、学習目標、評価の指針をもとに教科指導を行い、その実態をもとに改善点を検討する。	ア 補習講座時間数200時間以上を確保する。[R3 夏季補習80分95回の補講、定期考査に向けての補習、論文指導、英検対策指導等により200時間以上を確保]	ア 個々の生徒の進路希望実現のために夏期補習（3学年対象）80分×150回実施した。また、夏季補習以外にも個々の学習発達段階に応じた補習を早朝、放課後に実施した。(○)

府立いちりつ高等学校

	る授業、充実した授業」のために、授業研究や幅広い実践的な研修を実施し、学校全体の教育力向上をめざす。	イ 土曜自習室を開催することで、主体性を持って学習に取り組む態度を育成する。 放課後自習室に参加し学習することで、日々の家庭での学習習慣に繋げていく。 ウ 主体的・対話的で深い学びを促す授業と探究する意欲を育成する授業力の向上をめざして、学習環境を改善(Classi の活用推進等)し、研修会を実施する。	イ 学校評価アンケートにおいて、①「土曜自習室を利用したこと」が「ある」と答えた生徒の割合を3学年平均で 20%以上にする。また、②「補習体制や自習室の開設などで生徒の学力向上に努めている」に「そう思う」「思う時もある」と答えた保護者の割合を3学年とも 80%以上にする。 [R3 ① 9.0% ② 70.7%] ウ 授業アンケート①「先生はよりよい授業をしようとする意欲や熱意をもっている。」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている。」の上昇をめざす。 [R3 ① 3.56 ② 3.34]	イ 放課後自習室は年間を通して実施することができ、生徒の自学自習の支援ができたが、コロナの感染状況により、外部からチューターを招く土曜日自習室は開催することができなかった。3学期には土曜日自習室を開催する予定である。 【R4 ①23.3% ②85.0%】(○) ウ 学習支援クラウドサービスおよび学力生活実態調査の研修会は1学期および2学期の中間考査の際に研修会を実施した。また3学期には授業力向上に向けた採点時間短縮や考査分析補助の為にデジタル採点の研修会を実施した。その結果生徒は積極的に取り組む姿勢がうかがえた。ただ、デジタル機器が不慣れな教員もまだ多くいるのも現実であり、今後、教員へのアプローチを続けていく。(○) 【R4 ①3.38 ②3.30】
(2) 進路意識の高揚をはかり、それぞれの進路希望の実現をめざす。	ア 早朝・放課後自習室を開設することにより生徒の学習機会の支援を行う。 イ 生徒自らが自己の興味・関心や進学希望に応じた学習課題を選択できるよう、適切なプログラムを設定し、生徒各自の主体的な学習活動をうながす。	ア 自習学習時間を年間 250 時間以上確保する。[R3 259 時間] イ 学校評価アンケートにおいて「自分の希望する講座が開講されている」の指数を 70 以上とする。 [R3 74.9%]	ア 自習学習時間の年間 250 時間以上確保について概ね計画通りである。[R4 279 時間] (○) イ 9月に説明会を行った。今回はフォーム作成ツールでの提出、その後紙媒体での確認を行った。学校設定科目などで 15 名未満の選択科目については不開講となるが、概ね生徒の希望に応じたプログラムを設定できている。(○) 【R4 74.6%】	
(3) 国際交流活動を推進する。	ア 英検等外部資格試験の受験者を増やし、国際社会で通用する英語力をつけさせる。オーストラリア、サンクトペテルブルク、イタリアの学校との国際交流を推進する。	ア リモートも含め国際交流を年 1 回以上実施する。[R3 2 回] また、英語資格試験の年間受験者数を 300 以上とする。[R3 英検受験者 320 名]	ア 国際交流についてはオーストラリアの姉妹校との交流を主とし、新たに開始している。リモートによる国際交流も実施している。[R4 3 回] 英語資格試験の 1 月までの受験者数は 371 名である。(○)	
(4) 自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につけさせる。	ア 新型コロナウイルスの感染対策を徹底して安全に部活動を行うことができるよう、代表者会議や顧問会議において情報共有を行い、学校全体で部活動をサポートする。生徒会本部役員と生徒会指導部教員の連携を高め、円滑な行事進行をめざす。 イ 自らの健康に関心を持ち、自己管理能力を高め、生きる力を身につける。・健康的な生活習慣を身につけるとともに、生涯を通じて自らの健康を心身ともに適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する。 ウ コロナ禍で精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、保護者・学年・スクールカウンセラーとの連携を取りながら適切に対応する。 エ 支援を必要とする生徒の実態を把握し、保護者・担任との連携を図りながら個別の支援を考えていく。	ア 学校評価アンケートにおいて「本校の部活動は活発だ」の指数を 80 以上とする。 [R3 81.4%] イ 学校評価アンケートにおいて「学校の先生は、生徒の心身の様々な悩みを聞き、適切に答えてくれる」の指数を 70 以上とする。[R3 69.5%] ウ 学校評価アンケートにおいて「スクールカウンセラーが定期的に来校していることを知っている」の指数を 70 以上とする。 [R3 55.1%] エ 特別支援委員会を年 3 回以上開催する。[R3 5 回]	ア 安全対策を講じながら、部活動は概ね計画通り、実施することができている。(○) 【R4 84.0%】 イ ほとんどの生徒は健康管理を自ら行い、健康的な生活習慣を身につけているが、引き続き、指導継続していく必要がある。(○) 【R4 76.6%】 ウ コロナ禍で精神面の不安や悩みを抱える生徒を把握し、保護者・学年・スクールカウンセラーとの連携を取りながら適切に対応してきた。スクールカウンセラーの認知度の向上を含め、今後も、引き続き適切に対応していく。(○) 【R4 61.7%】 エ 特別支援委員会はすでに 6 回実施し、個別の支援を必要とする生徒に対応している。(○)	
(5) 生徒の希望する進路の実現に向けて、指導充実させる。	ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンス及び個別面談を行う。	ア 学校評価アンケートにおいて「学校には、生徒の必要としている進路情報があり、積極的に活用できる様になっている」の指数を 70 以上とする。[R3 71.2%]	ア 1 学年対象の進路講演会を 6 月、9 月に実施し、分野別ガイダンスを 7 月に実施した。進路やそれに応じた文理選択に向けて主体的に考えるきっかけとなった。 2 学年 6 月から 8 月にかけて探究科と連携し進路探究を行った。キャンパスプラン、キャリアプ	

府立いちりつ高等学校

				ランを考えるための企業講話、卒業生講話を取り入れた。 3 学年対象の大学別ガイダンスを 7 月に実施し、入試制度や大学に関する理解を深めた。 また、保護者向けの大学別進路説明会、進路講演会を 4 月、10 月に実施し、進路指導方針を共有するとともに、入試制度や奨学金等に関する情報を共有した。(○) 【R4 89.2%】
3 チーム「いちりつ」としての課題解決にあたる教員集団の確立	(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり	ア 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立する。	ア 学校評価アンケート（保護者）において「生徒のことについて、適切に相談に応じてくれる」の指数を 70 以上とする。 [R3 78.2%]	ア 観点別評価、探究、校務システム等について各委員会を中心に取り組みを推進した。(○) 【R4 82.0%】
	(2) 働き方改革としての業務の平準化、効率化	ア 時間外勤務時間の縮減を図るため、教職員への啓発と意識改革を図る。	ア 時間外勤務の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。教職員の平均時間外勤務時間を年次減少させ、令和 3 年度比 2 % 以上減とする。 [R3 約 47 時間 20 分]	ア 府移管にともなう事務作業により、年度当初の教員全体の時間外勤務時間が大幅に増加した。時間外勤務時間の増加、時間外勤務時間月 80 時間以上の教員数も増加している状況である。また、教員の事務処理も増加しており、業務負担が増加している。この点は来年度の課題として業務を見直し、継続して取り組む。(△) [R3 約 50 時間]